

天童将棋駒

山形県天童市など

天童将棋駒は、木を小さく切った「**木地**」の表面に、漆の木の樹液からできている「**漆**」で文字を書いて作られます。表現のことなるさまざまな駒が作られています。

山形県



1

美しい木目

天童将棋駒は、「**本黄楊**」や「**イタヤカエデ**」などから作られています。**木目のもよう**や**木の色**、**つや**、1枚の駒の**重さ**など、考えぬいて作られる木地は、**木からできた宝石のよう**といわれています。

木地をみがいている職人。



2

生き生きした書体

天童将棋駒の表面の文字は、**職人が手書き**をします。職人は「**銘**」とよばれる作者名がついた書体を手本にしています。安土桃山時代の有名な**書道家の書体**などがあり、**将棋を指しながら書の美しさも楽しむことができます。**



手書きで文字を書いている。

3

つやのある文字表現

文字の書き方には、木地に直接文字を書く「**書駒**」、木地にほりこんだ文字を漆でぬる「**彫駒**」、ほった文字のみぞを漆でうめる「**彫埋駒**」、漆をもりあげて文字を立体的にする「**盛上げ駒**」があります。**黒い漆で書かれた文字が光を反射し、かがやきます。**



天童将棋駒の
みりよく

歴史

この地域で将棋駒作りがはじまったのは、江戸時代末期のこと。当時この地域を治めていた天童織田藩は財政がきびしく、下級武士たちは生活を支えるために内職をしていました。「将棋は兵法戦術にも通じる」との考えから、藩士の吉田大八によって駒作りの内職は広くすすめられました。

まめちしき

古代インドのボードゲームが日本に伝わって将棋となりました。将棋の駒は1500年代ごろから作られるようになったといわれています。

関連工芸品

日向はまぐり碁石
(宮崎県)

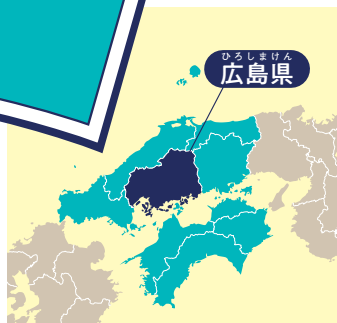
囲碁で使う白い碁石のなかで、最も高級なのが蛤碁石です。特に、宮崎県日向市でとれた「スワブテ蛤」の貝がらから作られたものは、見た目や打ち味が優れています。

熊野筆

広島県安芸郡熊野町

広島県

熊野筆は、たばねた動物の毛を、竹や木でできた軸にはめて作られています。書道に使う毛筆や絵をかく画筆など、さまざまな目的に合わせた筆が作られています。



熊野町で筆作りがはじまったのは、江戸時代後期といわれています。熊野の人々は、農業がひまな季節は他の地域へかせぎに出て、その帰りに奈良や大阪で仕入れた筆や墨を売りながら熊野まで帰っていました。その後、村の若者が筆作りを学び、技術を村に広めたことで産業として定着しました。

まめちしき

熊野町の人口は約2万3千人ですが、そのうち約1割の人が熊野筆作りにたずさわっています。愛知県の豊橋筆、奈良県の奈良筆、広島県の川尻筆とともに、日本四大産地の一つです。

1

目的に合わせた筆先

熊野筆は、細さも長さもことなる動物の毛を何種類も混ぜ合わせて作られます。さまざまな種類の毛をまぜることで、コシの強い筆からやわらかい筆まで、さまざまな筆を作ることができます。



さまざまな動物の毛。

2

墨ふくみの良さ

熊野筆は、使用する毛に「粉殻灰」をまぶし、熱した鉄でおさえる「火のし」をしたあとで、鹿皮に毛をまきこんでもむ「毛揉み」を行います。こうすると、粉殻灰がよぶんな油分をすい取ってくれ、筆が墨をよくふくむようになります。



毛に粉殻灰をかけているところ。

3

なめらかな書き心地

熊野筆に使用される毛は、職人が目で見て確認し、一本一本手入れをしてから使われます。毛をきれいにそろえたあと、うすいのりを付けながら、何度も折り返します。これを「練りませ」といい、この作業によって、毛がまんべんなくきれいにまざり、書き心地の良い筆に仕上がります。



練りませの様子。

関連工芸品

奈良筆
(奈良県)

日本の筆の歴史は奈良筆にはじまるといわれています。平安時代のはじめに遣唐使として唐（現在の中国）にわたった空海が、墨と筆の作り方を日本に持ち帰ったとされています。

熊野筆の
みりよく



もの調べ物の達人になろう！その3

博物館で調べる

もの調べ物のきほん

この本を読んで、わからない単語や疑問に思うことがあったら、他のしりょうでくわしく調べてみましょう。知りたい情報は、さまざまな方法で探すことができます。このページでは博物館での調べ方のコツをしょうかいします。

極意

博物館で調べる強みを知ろう

★専門的な知識が気軽に学べる

博物館は、しりょうを収集・保管したり、公開したりしている場所です。学生であれば、無料で利用できることもあります。工芸品にくわしい学芸員からの説明を受けられたり、工芸品づくりの体験イベントがあったりと、子どもから大人まで楽しむことができます。

★工芸品の実物を見ることができる

博物館には、古いものや貴重なものを未来に残す役目があります。そのため、ふだん見ることができないような貴重な作品が展示されていたりします。館によっては、職人が工芸品を作っているところを見ることがもできます。

★テーマにそって学ぶことができる

博物館では、テーマにそってわかりやすくしりょうが公開されています。しりょうの種類もほうふで、実物の工芸品だけではなく、解説パネルや動画などが用意されていることもあるため、さまざまな角度から学習することができます。

こんなことは博物館で学ぼう！

●実物のしりょうを通してわかる情報

こんな
ぎもんは博物館で
しら調べよう

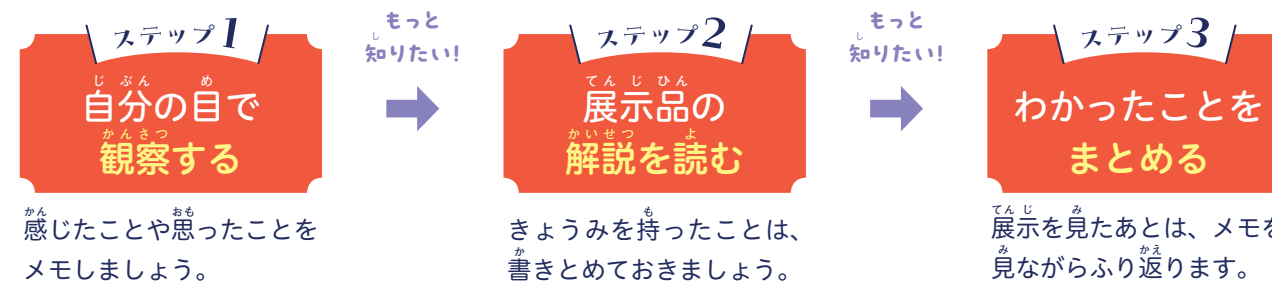
- ・実物の工芸品や道具の様子は？
- ・人間国宝の作品はどこがすごいの？
- ・鎌倉時代と江戸時代の作品のちがいは？
- ・工芸品はどんなふうにするの？
- ・職人さんの技はどんなふうにすごいんだろう？
- など。

博物館へ行ってみよう

最初に、工芸品を展示している博物館を本やインターネットで探しましょう。行き先を決めたら、どんなことが学べるのかや、開館時間、入館料、行き方などを調べましょう。行く前に、自分が知りたいことや学芸員に聞いてみたいことをノートにまとめておくと、しっかり学ぶことができます。当日はメモが取れるように、ノートと筆記用具を忘れずに持っていきましょう。また、博物館へ行くときは、必ず保護者の人に相談してから行くようにしましょう。

こんなところに気をつけよう

博物館では、実物の工芸品の大きさや色味などを、よく観察することが大切です。そばにあるパネルには解説が書かれているので、展示品ごとの歴史やとくちょうなどを知ることができます。このとき、大事だと思ったことはメモしましょう。館内に置かれている無料のリーフレットには、その館に関する情報がわかりやすくまとめられているので、積極的に活用しましょう。



博物館へ行ったら……

！時間を確認しながら回ろう！

博物館は広いので、全てを見て回るにはとても時間がかかります。時間がかざられている場合、館内をどのような順番で回るかを考える必要があります。自分が見たいものや知りたいことを整理してから、地図を参考に館内を回りましょう。イベントに参加する場合は、展示を見る前に開始時間を確認しておきましょう。

！一歩進んだ観察にちょうせん！

気になるものがあったら、スケッチをしましょう。形やもようなど、かいてみることで仕組みなどが理解しやすくなります。時間がなときは、写真をとるのも良いでしょう。さつえいが禁止されていることもあるので、写真をとって良いかわからないときは、館の人に聞きましょう。

！お世話になった人にお礼をしよう！

学芸員など、工芸品について教えてくれた人には、感謝の気持ちを伝えましょう。授業で博物館へ行ったときは、先生と相談したうえで、お礼の手紙をそえて作成したリーフレットを送っても良いでしょう。